

Title	能美市民と九谷焼：[九谷焼に関する意識調査 レポート] 能美市民は九谷焼のこと、どう思っているの？
Author(s)	
Citation	JAIST社会イノベーション・シリーズ2, 26
Issue Date	2009-06
Type	Others
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/8217
Rights	
Description	

今後の展望

アンケート調査から導き出されたことは、能美市民はその在住地区に関わらず、九谷焼をまちの文化であり、誇るべき資産であると考えているということです。また能美市民はまちづくり活動に対する高い参加意欲を持っていることも明らかになりました。実際に、九谷焼を活かしたまちづくり・地域PRに関しては、市民からさまざまなアイデアが寄せられています。

■ 例えば・・・

- ・ 九谷茶碗まつりを市民参加型のイベントにすべき。
- ・ 飲食店などで食器を九谷焼とし、そのことをメニューや看板でアピールするとともに、タウン情報で「九谷焼の店」として集客を図る。
- ・ 九谷焼の窯元見学会を実施する。
- ・ 街の中に九谷焼を使ったものを制作する。小中学校の案内板、道路標識、市役所内、公の建物内など。
- ・ 九谷焼=寺井というイメージが強いので、他の地域でも九谷焼を文化財産と意識づける必要があると思う。例えば、九谷茶碗まつりを寺井以外で行う。あるいは寺井、辰口、根上の3会場に分散して行うことにより、その地区ごとに経済効果も出てくるのではないか。
- ・ 能美市のキャラクターを決めて、それを九谷焼で作し、公共の建物に置く。
- ・ 小中学校で「町の歴史・歩み」等として、広く深く教えることを進めるべき。
- ・ 住民がもっと九谷焼に親しめるように、自分の使う食器などを自分の手で作ったりする。
- ・ インターネットなどで情報を発信。
- ・ 小松空港・小松駅→能美市(陶芸村)→辰口温泉など、一連の観光ルートのPR。
- ・ 職人の街という「ものづくり」をアピールして観光名所を増やす。職人体験のホームステイや旅行に組み込むなど。
- ・ 販売組織を集約して行政や市民と協働するようにする。商品開発にJAISTや市内大企業の意見や協力を求める。
- ・ 九谷焼と料理を組み合わせで紹介する。

ただし九谷焼を活用した市民参加型のまちづくりを目指していくときの課題は、実際には市民は九谷焼に触れる機会が乏しく、現在ある機会には必ずしも魅力を感じていないということです。九谷陶芸村などの施設が、市民にとってどのような場となるべきなのか、あらためて検討する必要があります。

JAISTは今後も能美市に協力し、九谷焼を活用したまちづくりに向け検討を進めていきます。

地域再生人材創出拠点の形成プログラムとは

石川伝統工芸イノベータ養成ユニット事業は文部科学省・科学技術振興調整費の地域再生人材創出拠点の形成プログラムにより運営されています。同プログラムは大学の個性・特色を活かし、地域産業の活性化や地域社会のニーズの解決に向け、地元で活躍し、地域の活性化に貢献し得る人材を育成することを目的として、平成18年度に創設されました。大学が地元の自治体と連携し、科学技術を活用して地域に貢献する人材を育成する「地域の知の拠点」を形成するシステムを構築することを支援する仕組みです。

JAIST 社会イノベーション・シリーズ 2

発行 2009年6月

発行所 国立大学法人 北陸先端科学技術大学院大学・地域・イノベーション研究センター
〒923-1292 石川県能美市旭台1-1 知識科学研究科棟II7階

■ 本誌に関するご意見、お問い合わせ

TEL: 0761-51-1839 FAX: 0761-51-1767 E-mail: dento-secr@jaist.ac.jp



本誌は、文部科学省科学技術振興調整費
地域再生人材創出拠点の形成プログラム
の助成を得て発行しております。

能美市民と九谷焼

〔九谷焼に関する意識調査 レポート〕
能美市民は九谷焼のこと、どう思っているの？



能美市は平成17年2月に旧根上町・寺井町・辰口町が合併して誕生しました。石川県の代表的な伝統工芸のひとつである九谷焼は、旧寺井町の伝統工芸として知られています。では新しい能美市の市民は九谷焼のことをどう思っているのでしょうか。九谷焼への思いは地域間で差があるのでしょうか。

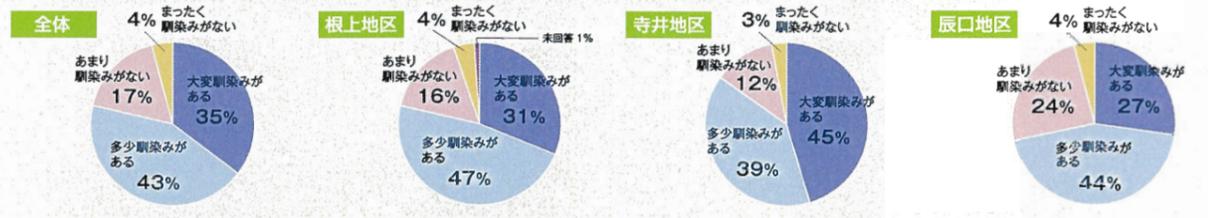
能美市とJAISTは平成20年2月に九谷焼に関する市民アンケート調査を実施しました。本誌ではその結果を報告し、九谷焼を活用したまちづくりの可能性について探ります。

九谷焼に関する意識調査 レポート

能美市では九谷焼を活用した地域活性化に向けた取り組みを検討するため、九谷再生ビジョン委員会を発足させています。同委員会では平成20年2月、基本計画作成に先立ち、JAISTの協力のもと「九谷焼に関する市民意識調査」を実施しました。本誌ではその結果を報告し、新能美市民の九谷焼に対する意識と、九谷焼を活用したまちづくりの可能性について探ります。

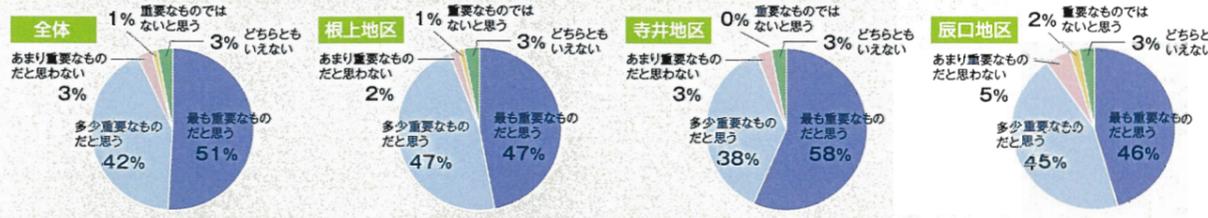
【九谷焼への親しみ】 九谷焼は身近な存在です！

「あなたにとって、九谷焼はどの程度親しみがあるものですか」という質問に対しては、「大変馴染みがあるもの」と回答した人が約35%、「多少馴染みがあるもの」と回答した人が約43%となり、「あまり馴染みがないもの」および「まったく馴染みがないもの」と回答した人を大きく上回っています。特に寺井地区は「大変馴染みがあるもの」と回答した人の割合が高い結果となりました。



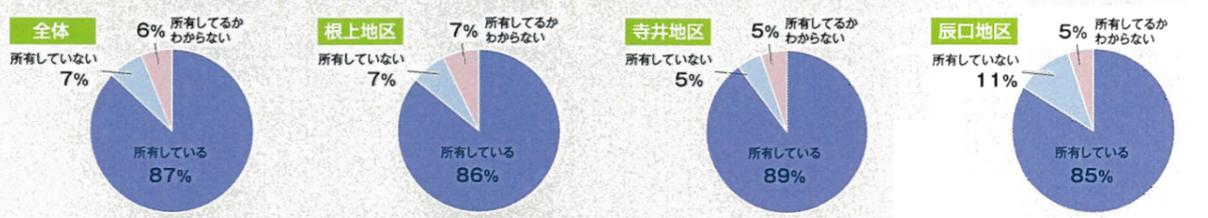
【九谷焼の文化的重要性】 九谷焼は文化です！

「九谷焼は能美市の文化的財産として重要なものだと思いますか」との質問に対しては、「最も重要なものだと思う」と回答した人が約51%、「多少重要なものだと思う」と回答した人が約42%となり、「あまり重要なものと思わない」および「重要なものではないと思う」と回答した人を大きく上回っています。九谷焼の能美市の文化的財産としての重要性は非常に高いものと考えられます。ここでも寺井地区で「最も重要なものだと思う」と回答した人の割合が最も高い結果となりました。



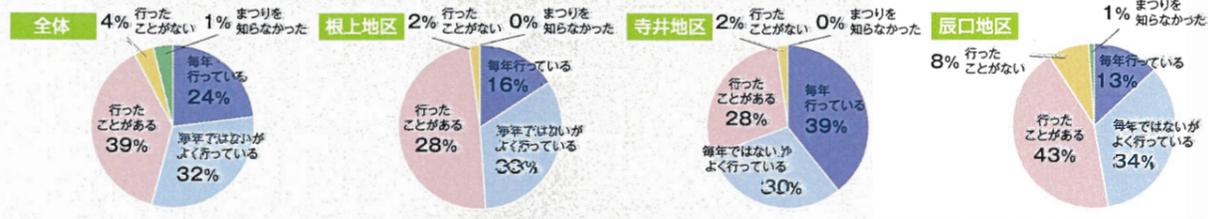
【九谷焼の所有】 うちにもあるよ、九谷焼！

「ご自宅で九谷焼を所有されていますか」という質問に対しては、全体の約87%が所有していると回答しています。ほとんどのご家庭で、九谷焼を所有していることが明らかになりました。また利用頻度についても、「毎日利用している」と回答した人が約47%、「たまに利用している」と回答した人が約38%となり、九谷焼を日常的に愛用している人が多いという傾向がみられました。



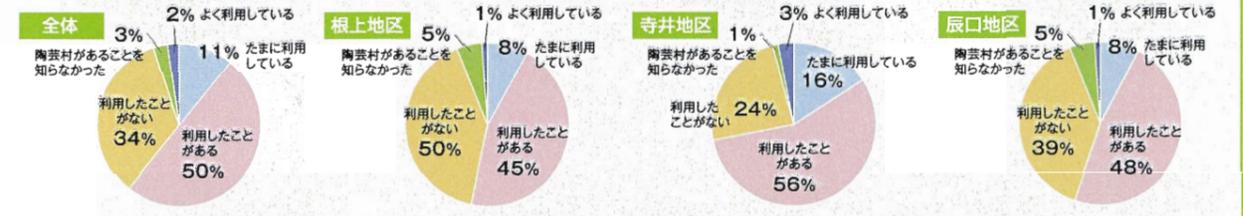
【九谷茶碗まつりについて】 毎年行ってる？茶碗まつり

能美市では毎年5月に「九谷茶碗まつり」が開催されます。「九谷茶碗まつりに行ったことがありますか」という質問に対しては、「毎年行っている」と回答した人が約24%、「毎年ではないがよく行っている」と回答した人が約32%、「行ったことがある」と回答した人が約39%となり、全体の約95%の人が九谷茶碗まつり体験者でした。またその満足度については、「やや満足している」と回答した人が約47%と最も多く、次いで「あまり満足していない」と回答した人が約30%。満足していない人からは、「ほしいものを売っていない」「駐車場が遠い」などの意見が挙げられています。



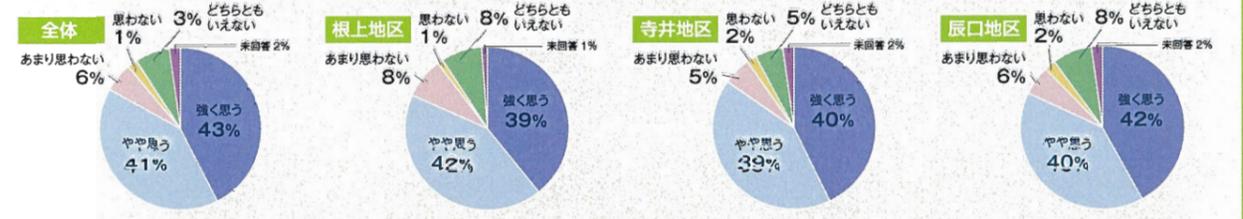
【九谷陶芸村について】 がんばれ九谷陶芸村！

「九谷陶芸村（美術館・資料館・陶芸館など）を利用したことはありますか」という質問に対しては、利用経験がある市民が全体の約63%を占めたものの、「よく利用している」、「たまに利用している」と回答した人の割合は低く、ほとんどが「利用したことがある」という回答で、利用頻度はそう多くないという結果が出ています。また九谷陶芸村の利用目的としては「個人的趣味や楽しみのため」、「贈答品・お土産品の購入のため」、「学校の授業・学習のため」、「子どものレクリエーション」などが挙げられています。「九谷陶芸村」を今後も利用したいと思うかという質問に対しては、意見が分かれており、「今後も利用したい」と回答した人が約20%、「どちらかといえば利用したい」と回答した人が約36%、「あまり利用したいと思わない」、「利用しないと思う」と回答した人が全体の約28%となっています。



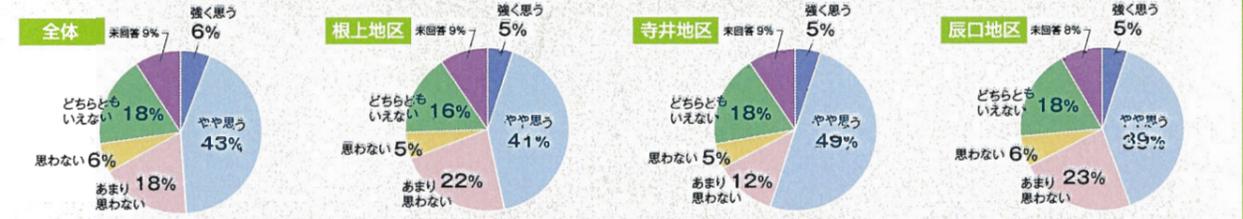
【九谷焼を活かしたまちづくり・地域PR】 九谷焼を中心にしたまちづくりを！

「九谷焼をまちづくりに活かしたり、能美市の観光資源としてPRしていくべきだと思いますか」との質問に対しては、全体の約84%の人が「強く思う」、「やや思う」と回答しており、「あまり思わない」、「思わない」と回答した人を大きく上回っています。地区別にみた場合も傾向に大きな違いはみられませんでした。



【市民参加のまちづくりへの協力】 まちづくりに参加します！

「今後、市民参加のまちづくり活動があれば参加したいと思いますか」という質問に対しては、「強く思う」と回答した人が約6%、「やや思う」と回答した人が約43%となり、「あまり思わない」および「思わない」と回答した人は全体の約24%でした。地区別にみると「強く思う」および「やや思う」と回答した人の割合が最も高かったのは寺井地区で、全体の約55%を占めています。



【九谷焼に関する市民意識基礎調査・調査概要】

- ・調査地域：能美市（根上、寺井、辰口）
- ・調査対象：20歳～69歳の在住者（男女）
- ・調査方法：郵送
- ・サンプル抽出：根上、寺井、辰口の各地域、年齢、男女の別を、住民台帳から人口比によって無作為抽出
- ・配布数量：2,000件
- ・回収数：752件（回収率約38%）
- ・調査時期：2008年2月
- ・調査主体：能美市総務部企画情報課
- ・実施機関：国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学

【回収数および回収率】

調査票の全回収数は752で、回収率は約38%。男女別の回収率では女性の回収率が約46%で、男性の回収率を大きく上回った。回答者の在住地区構成は、根上地区が約30%、寺井地区が約38%、辰口地区が約31%となった。